

キラキラ輝いています！

図書館サポートグループ

布絵本 あれあれ



『第8回手作り布の絵本全国コンクール』会場にて。(群馬県桐生市)

作る過程が楽しい。人に見てもらおうと嬉しい。作る本人が楽しめる。

紐を通す、結ぶ、スナップをはずす、また付ける…。布絵本は見る、読むだけでなく幾通りにもかたちを変えて読み手を楽しませてくれる。図書館で活動する『あれあれ』は、布絵本製作のボランティアサークルである。



布絵本は、おはなしコーナーの脇に置かれ、貸し出しも行っている。

★楽しんで活動したい

2年半前、図書館主催の講座をきっかけに発足した『あれあれ』は、毎月第1・3水曜日の午前10時から2時間ほど活動をしている。各々が手元の作業を進めながら、世間話や冗談が飛び交う空間はやすらぎの時間でもある。一冊の布絵本を完成させるまでに約3か月。義務感や焦りは感じない、ゆったりとした作業風景だ。メンバーに参加のきっかけを問うと「孫が生まれて、自分の作った物で遊べるのいいと思って講座に参加しました」と答えてくれた。「ボランティア」というと、どうしても「奉仕の心」って感じがするけれど、そ

んなつもりはなく、布絵本作りが楽しいからやっています」と別のメンバーが話す。プライベートが忙しいときは決して無理をしない。でも、行くとなんか自然と足が向く。個人でも布絵本製作を行うメンバーは、活動の魅力を「ひとりで作るとペースに波があったり、作り方が自己流になったりしますが、サークルなら教え合えるし、来れば誰かがいるので行こうと自然に思えるのです」と語る。

★夏休みの宿題が全国大会に

平成25年の夏、サークル内で夏休みの宿題が出された。それは「町の商店」をモチーフに1ページ作る、というものだった。「ひとりの呼びかけで始まったのですが、細かい打ち合わせはなく、それぞれが家で作業したから、お互いがどんなものを作ってるのかも知りませんでした」。内容が重複してもその時はその時に考えることとし、町内の店舗を巡って取材をしたり、ページを作りながらイメージを固めていったりと、製作過程も楽しんだ。そして提出日、並べられた宿題は圧巻だった。



審査委員賞（新井リコ賞）を受賞した「もろやまとしよかんしょうてんがい」※表紙にも全ページを掲載。

「持ち寄った作品を見たら、感動しちゃって…。それでちょうど応募時期でもあったので、コンクールに出そうって声が出たんですよ」とメンバーのひとりが話してくれた。そして夏休みの宿題は「第8回手作り布の絵本全国コンクール」に出展された。『あれあれ』の個性と魅力が一枚一枚に込められた「もろやまとしよかんしょうてんがい」は、アイディアの詰まったレベルの高い作品との講評を受け、審査委員賞（新井リコ賞）を受賞した。「コンクールに出すために作った物ではないが、受賞はすごく嬉しかった」とメンバーは振り返る。「嬉しい・楽しい。『あれあれ』はものづくりに最も大切な心を自然に持ち、活動を行っている、そう感じさせるサークルである。」